

今月の
テーマ：市民社会と政治

2016年7月 Vol.24 No.7



環境と文明

認定NPO法人 環境文明21 会報



参議院議員は中長期的視点からの仕事を

藤村 コノエ

この会報が届く頃には、参院選も終わり、次世代にツケを残す政治が続くのか否か、判明していることと思います。選挙戦のさなかにイギリスのEU離脱という歴史的な出来事があり、これが日本の選挙戦にどう影響したかはわかりませんが、結果の如何に関わらず、6年間は身分が保証される参院議員には、混迷の時代の政治家の責任、参院の使命を肝に銘じ、今の衆院には全く期待できない中長期的視点から、党派を超えて次の政策に本気で取り組んでほしいと期待します。

まず、これから短くても数十年、人類が向き合っていかなければならない気候変動です。昨年12月の「パリ協定」合意以降、政府は温暖化対策推進法の一部改正や温暖化対策計画を打ち出しました。しかしいずれも私たちの期待に反するもの。例えば、電源構成はパリ協定以前のままで、中長期的には環境負荷を増大させ経済性も全くない原発、石炭火力に重点が置かれたままです。また2030年26%削

減の達成メニューは掲げたものの具体的措置は明記されていません。さらに産業部門は6.5%削減という極めて低い目標なのに、家庭、業務部門は40%削減という不公平な目標設定。排出量取引や環境税など経済手的手法も極めて不十分です。相変わらず経産省や一部経済界に押されっぱなしの環境政策ですが、その背景には、安全保障にもつながる気候変動の重要性を理解せず、目先の経済性を優先しつつ憲法改悪を狙う安倍政権の意向が強く影響しているようです。

先日再エネ事業にいち早く取り組む中小企業の若き経営者から、「当社の方向性は間違っていないと自信はあるが、後押しする国の政策が著しく遅れている。このままでは持ちこたえられるか心配」という話を聞きました。また「本格的な環境税導入がなければ頑張ったものが報われない」との声も聞かれます。

千葉大の広井良典教授は、著書『ポスト資本主義』の中で、“日本では工業化による高度成長期の成功体験が鮮烈で、「経済成長が

輝く社員が、環境力

臼井 麻紗社（うすい まさと／日本ウエストーン株式会社おもてなしお客様最高責任者）

この度は、素晴らしい賞を賜り感謝申し上げます。当社の成長の原動力は、環境力にあります。商品開発や人材教育も環境力を磨く事で培って参りました。

2000年12月に業界では、初となるISO14001の認証取得をし、ISO14001/2015年度版更新でも、日本で一番に更新審査で認証取得しました。会社経営において、環境力を磨く環境ISOは必要不可欠なツールだと確信しています。野球は、バット・ポール・グローブの道具がなければ、プレーできません。会社経営もISOという道具がなければ経営できないものだと思っています。

わが社は事業として、工場の清掃関係で利用されるタオル・ウエスをレンタル販売している会社です。大切にしていることは、掃除・挨拶・学びです。会社価値として、“誰にでもできる事を、誰にもできないぐらい継続する”という理念があります。製造業のバックヤードを担う業種だけに安心・安全が会社品質といっても過言ではありません。製造工程のある会社では、油が付着したり、インキや溶剤が付着したりします。利用して頂いているお客様は、わが社と取引することで、廃棄物（ウエス）が資源に変わり循環型商品としてリユースされます。つまり、お客様のゼロエミッションのお役に立つ事業で、いろいろな製造業のバックヤードで循環型社会に貢献させて頂いています。

なぜ当社が環境力を磨く事に力を入れているか、それは商品・サービスの事業目的もありますが、過去に会社倒産しかねない大きな環境事故に起因します。

一つ目は、廃水プラントが焼失してしまう

大事故。二つ目は、洗濯廃水が河川へ流出した事故です。この二つの事故は、会社存続の危機でもありました。そこから復活できたのは、社員力のおかげです。会社経営47年経ちますが、人材力を高める指針である環境整備に力を入れてきました。その環境整備が社員を育て、結果として復活できました。環境整備＝環境力といえるでしょう。火事からの復活は、三日三晩、夜を徹しての作業でした。全社員がプラント復旧工事に全力を尽くすことで、4日目の朝からは、工場を稼働させることができました。おそらく業者任せの復旧であれば1ヵ月はかかったと思います。

洗濯廃水事故では、一級河川に油含有の洗濯廃水が流出しました。水面に浮かぶ油を回収し、更に河川を原状回復させるために、社員は1ヵ月河川に浸かりながらの作業をやりきりました。この中で「環境力」を磨く事の大切さを痛感しました。この1ヵ月にわたる復帰作業と是正処置の対応は行政の関連部局からも高く評価されました。会社倒産の危機も長年社員とともに学び励んできた環境整備（環境力）によって乗り越えられました。

そんな経験を糧として如何に環境力を磨くことが、会社継続の力になるかを実感してきました。環境力を高めれば、社員力が高まる。社員力が高まれば、お客様満足が高まる。そして、お客様満足が高まれば、業績があがり社会奉仕の機会が増えて社会貢献度が増加していく。環境力を高めることで、三方よし（買い手よし・売り手よし・社会よし）の実現が可能になって行くことを体現している毎日です。その結果、日本で大切にしたい会社中小企業長官賞・企業フィランソロピー大賞

・経済産業省おもてなし企業100選や今回の経営者環境力大賞など励みになるアワードを頂ける会社力に成長することができました。すべては、社員力が生み出してくれています。

輝く社員さんの日頃を案内したいと思います。よい人財になるためには、しっかりとした理念と行動指針を自分自身の言葉に置き換えて行動できる人へ成長してもらわなければなりません。そのステージを作り、成長できる機会を提供することは経営層の使命だと思っています。そして、最高のパフォーマンスを出す実施責任者は社員です。お客様から信頼と満足を頂かなければ会社の存続はありません。弊社の事業とISOの目的目標が、社員個人の目標管理に落とし込まれて毎日毎週毎月と進捗管理され、より改善されていくことで、個人の成長＝会社の成長＝お客様の満足へつながっていきます。ISOの基準に従って、計画・行動・チェック・見直しの各プロセス管理を自ら管理できる社員を育てることを愚直に実施しています。

創業当時から培ってきた環境整備は、社員のリーダーシップで毎月一度環境教育日に更新する環境力を磨くプログラムで実施しています。工場営繕活動では、高所作業・専門作業も社員自ら資格を取得し、更に専門スキルを高めてすべて自らの力で自らの作業環境を向上していけるようになってきています。

「ありがとうカード」や「グッドジョブカード」などの制度も設け、よりよい雰囲気職場づくりにも取り組んでいます。重視しているのは「なぜ、これを行うことが大切なのか」を丁寧に伝えること。勉強会にしる、掃除にしる、カードの交換にしる、トップダウンにただ「やれ！」と言うのではなく、それを「行う理由」を、社員にわかってもらえるまで、事あるごとにさまざまな表現を使って繰り返し説明します。たとえば、毎日のトイレ掃除にしても、「汚れに直接触れることで、

五感を通じて問題に気づく力を鍛えるためだよ」と話したり、「いい加減に掃除をされたトイレと、丁寧に掃除をされたトイレ、どちらを使いたいと思う？」と問いかけたり社員自ら気づくこと大切にしています。

良い会社良い組織になるためには必ず良い仕組みがなければなりません。環境力向上も経営品質向上もISOも考え方の仕組みとしては、同じだと思っています。その内容により社風・社格といった目に見えない価値創出に繋がります。良樹細根しっかりとした根を張らないと大樹となりません。環境力とは会社経営そのものだと思っています。上辺だけの環境力でなく、環境経営を実践していく会社が増え、しっかり大地に根を張ることで、日本経済も成長し大樹になるのではないのでしょうか。その一翼を担い事業活動を全社員一丸となって邁進し、お客様にも影響を与える会社になれるように取り組みたいと思います。



自ら考え、行動できる社員を育てることに力を注いでいます



危険をとまなう高所作業は資格を取得した社員自身が作業環境を向上させる工夫をしています